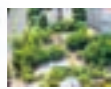


オリンパスが、明日をはじめています。

もっと楽しい明日へ。



ジオラマ



ポップアート



トイフォト

見慣れたいつもの景色のほずが、アートに見えてくるOLYMPUS PEN Liteのアートフィルター。フィルターを選び、シャッターを押すだけで誰でも簡単にココロ踊る写真が残せます。小型軽量のマイクロ一眼だから、まいにち持ち歩け、まいにちがアートに。にんげんのココロとカラダの喜びのために、明日の技術を、今日、実現しました。

もっと健やかな明日へ。



通常光画像\*

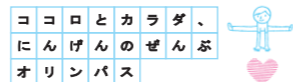


NBI画像\*

光の力で、通常光では見えにくいがんなどの病変の早期発見をサポートするNBI(狭帯域光観察)。オリンパスの新しい内視鏡技術です。医療の現場に新しい光をもたらすとともに、患者さんのカラダへの負担軽減も期待されています。にんげんのココロとカラダの健康のために、明日の技術を、今日、実現しました。

\*モデルを用いたイメージ画像

そうか。わたしの明日はもうはじまっていたんだ。



OLYMPUS®

Your Vision, Our Future

OLYMPUS®

Your Vision, Our Future

OLYMPUS REVIEW

第143期 中間報告書

平成22年4月1日~平成22年9月30日

証券コード:7733



オリンパス株式会社

業績ハイライト

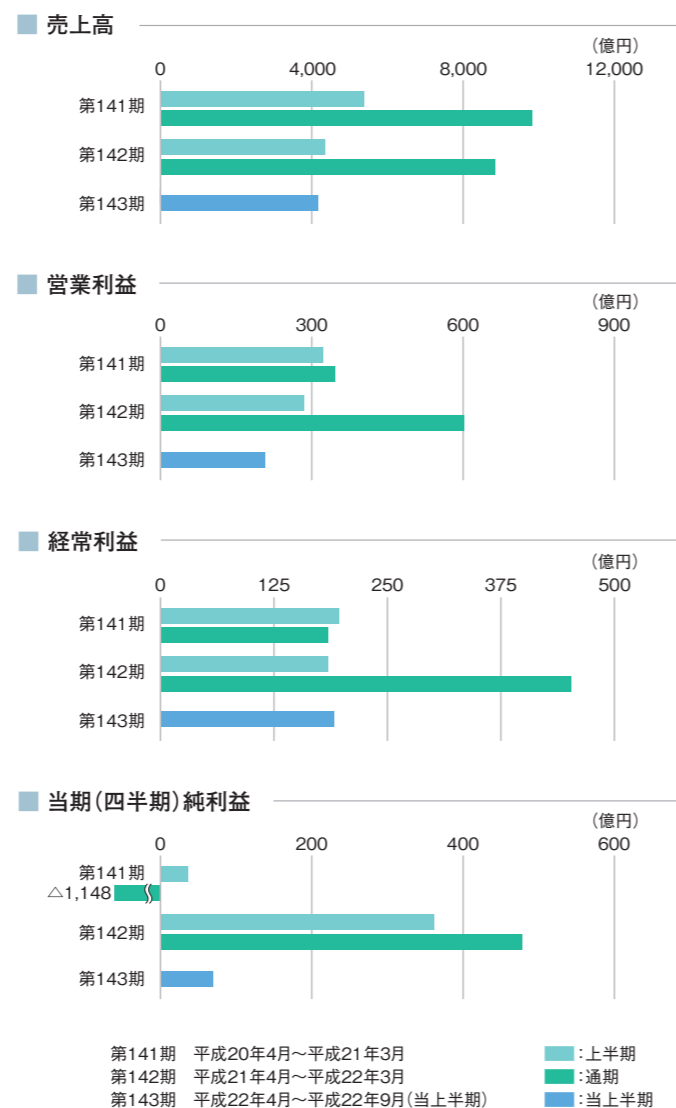


表紙写真:チビシマリス  
 撮影者 :岩合光昭氏  
 取材地 :アメリカ ワシントン州  
 オリンピック国立公園  
 使用機種:OLYMPUS E-5

©Hideko Iwago

CONTENTS

業績ハイライト ..... 1  
 株主のみなさまへ ..... 2  
 トップインタビュー ..... 3  
 ビジネスフォーカス ..... 5  
 オリンパスニュース ..... 9  
 業績の概要 ..... 12  
 事業部門別概況 ..... 13  
 四半期連結財務データ ..... 15  
 株式情報 ..... 17  
 会社情報 ..... 18



当報告書は連結決算を中心とした内容としています。特に記載がない場合、数値は連結ベースによるものです。  
 なお、百万円単位の表示金額は、百万円未満を四捨五入しています。

第143期中間報告書をお届けするにあたり、株主のみなさまの平素からのご支援に心からお礼申し上げます。

当上半期の連結業績は、円高の進行やデジタルカメラ市場の競争激化といった厳しい事業環境が続き、四半期純利益は減益となりました。

中間配当金につきましては、厳しい状況ではありますが、株主のみなさまのご支援に報いるため、1株につき15円といたしましたのでご報告申し上げます。また、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするとともに、株主のみなさまへの利益還元のため、100億円を上限とした自己株式の取得を実施しております。

オリンパスでは、本年策定した「2010年経営基本計画」の初年度として、柔軟で筋肉質な企業体質作りに取り組んでいます。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月



代表取締役社長 菊川 剛



※再生紙を使用しています。



## 戦略に基づいた事業領域拡大と 新たな改善に取り組むことで、 みなさまのご期待に応えてまいります。

代表取締役社長 菊川 剛



### Q | 当上半期の状況はいかがでしたか。

当上半期は、対ドル・対ユーロに対する円高傾向に歯止めが掛からず、オリンパスにとっては厳しい経営環境が続きました。

当上半期の業績は、為替や昨年分析機事業を譲渡したことによる影響を除くと実質的に増収、営業利益も前年水準となったものの、誠に遺憾ながら経常利益以外は前年同期比で減収減益になりました。

今後の経済状況の先行きも依然不透明のままですが、厳しい経営環境の中でも確実に収益を上げられる企業体質を作り上げるため、オリンパスは本年5月に発表した「2010年経営基本計画」(以下、10基本計画)の初年度として、着実に取り組みを進めています。

### Q | 事業ごとの10基本計画の進捗を聞かせてください。

各事業で、当初の見通しに沿った取り組みを継続的に進

めるとともに、来期以降を見据えた新たな改善にも取り組んでいます。

医療事業では、中国・アジア市場での戦略的な取り組みを加速させるとともに、内視鏡の適応領域の拡大等も進めています。例えば、呼吸器分野において、肺疾患治療デバイスを手掛ける米国のSpiration, Inc. (スパイレーション社)を連結子会社化し、オリンパスが従来より手がけてきた肺がん中心の市場に加え、肺気腫などの非がん性肺疾患の領域にも本格的に事業展開を開始しました。

ライフ・産業事業でも、事業領域拡大に向けた動きがあります。

まずライフサイエンス領域では、病理画像診断支援ソリューション分野での製品開発に日本電気(株)(以下、NEC)と共同で取り組みを始めました。オリンパスが開発する次世代バーチャルスライド装置にNECの病理画像診断システム技術を搭載することで、病理診断※の効率化といった、新たな価値の提供に繋がると考えています。

※ 適切な治療を行うために、人体から採取した病変組織や細胞を病理医が顕微鏡で観察し、病気を診断する行為

産業領域では、これまで工業用内視鏡、超音波・渦流探傷機器で検査・計測市場をカバーしてきましたが、本年7月に、蛍光X線分析装置に強みを持つ米国のInnov-X Systems, Inc. (イノベックスシステムズ社)をグループ傘下に取り込み、事業領域を分析市場にまで拡大しました。これにより、工業検査領域全域を扱う総合メーカーとして、より幅広い事業展開を図ってまいります。

次に映像事業ですが、当上半期は非常に厳しいスタートとなりました。この難局を乗り越えるため、商品力と販売力の改革に着手しています。

商品力強化の観点では、オリンパスが得意とするカメラ作りの原点に立ち返り、レンズ技術やメカ技術を活かした商品で他社との差別化が重要と考えています。例えば、本年9月にドイツで開催された映像機材総合見本市「フォトキナ2010」に参考出品いたしました、オリンパスが誇る「ZUIKO (ズイコー)」レンズを搭載した高級コンパクトカメラの開発が、その一つです。

そして販売力強化の観点では、欧米市場におけるミラーレス一眼カメラの認知度向上が鍵になると考えています。商品ラインアップを強化することに加え、ミラーレス一眼カメラの魅力をますますPRしていきます。また、現在成長著しいインドに現地法人を設立する等、新興国への販売強化も進めています。

最後に情報通信事業ですが、スマートフォン市場の拡大等、急激に事業環境が変化しています。この変化をビジネスチャンスと捉え、情報通信領域での競争力をさらに強化するため、このたび連結子会社のアイ・ティー・エックス(株)を完全子会社化することにいたしました。これにより、経営スピードのさらなる向上とブランド力・顧客基盤・技術力といった経営資源の有効活用を行い、オリンパスグループ全体で情報通信事業の価値の最大化を目指します。

### Q | 株主のみなさまへ一言お願いします。

10基本計画の経営スローガンは「グローバル化のネクストステージへ」です。このスローガンのもと、「グローバル競争力のある企業体質への転化」と「新興国市場への事業展開強化」を図るべく、ここにご紹介した以外にも、全社レベル、個別事業レベルそれぞれに戦略を遂行しています。まずは企業体質をしっかりと強化し、新たな成長に挑むことで、みなさまのご期待に応えてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 中国・アジア市場戦略の推進

## ～中国北京に内視鏡トレーニングセンター設立



展示エリア  
内視鏡や外科・処置器具製品に関する展示を行っています



トレーニングセンター外観

オリンパスは、「2010年経営基本計画」のひとつに「中国・アジア市場における事業展開の強化」を掲げ、5年後(平成27年3月期)の中国・アジア市場での連結売上高を2,500億円にすることを目標し、アジアの事業基盤の強化を図っています。なかでも医療事業では、中国・アジア市場での売上を5年後に1,000億円規模にするという目標の達成に向け、中国での販売体制強化等に取り組んでいます。

この取り組みの一環として、平成20年の上海に続き、平成22年7月に中国北京市に内視鏡トレーニングセンターを開設しました。

この施設では、内視鏡を使った手技のトレーニングが、理論から実技訓練に関するものまで行えます。

医療従事者(ドクター)の方だけでなく、施設スタッフに対するトレーニングを実施することで、中国における低侵襲診療の認知度と内視鏡の普及度を上昇させ、患者さんのQOL(Quality of Life:生活の質)向上と市場の拡大を図ります。



オーディトリウム  
81人収容可能な講演ホールです

ドライラボルーム(各種シミュレーター訓練室)  
国内外からトレーナーを招聘し、実技トレーニングやトレーニング方法の開発を行います



# 「オリンパスでよかった」と信頼していただけるとのために

## ～ VOC経営（お客様の声を活かす経営）の実践

オリンパスグループでは、貴重なお客様の声（VOC：Voice Of Customer）を商品開発やサービスに反映できるよう、社員全員が「お客様の視点」でのモノづくりやサービスを常に心がけ、業務に取り組んでいます。

### 世界一流の顕微鏡お客様相談センターを目指して

オリンパス顕微鏡お客様相談センターには、ユーザーや代理店などさまざまな方からお問い合わせが寄せられます。

限られた人材と時間の中でより多くのお客様にご満足いただけるよう、「お客様への応答率※1の向上」と「平均回答時間の短縮」を目指し、データベースの構築に取り組みました。このデータベースに、過去によくある質問や顕微鏡知識集など約2,000件の情報をカテゴリ別に登録し、お客様からのお問い合わせに対して、専門用語ではなく、お客様の言葉を用いて必要な情報が検索できるようにしています。

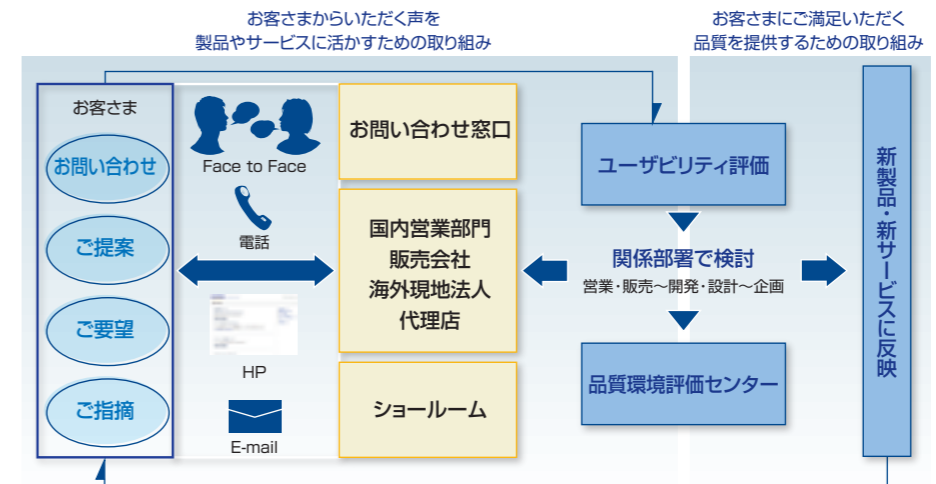
これまで回答に必要なデータが社内に散在し、個人の検索能力や経験値の違いで回答内容・時間に差が出ていた電話応対を、誰でも素早的確な回答にたどりつけるようにしたことで、平均回答時間で約40%、お客様への応答率で約70%の改善を図りました。

今回この取り組みにより、コンタクトセンター（コールセンター）の運営改善の取り組みを表彰する「コンタクトセンター・アワード2010」※2において、運営効率・品質を高めるための施策と成果についての審査部門「オペレーション部門」の最優秀賞を受賞しています。

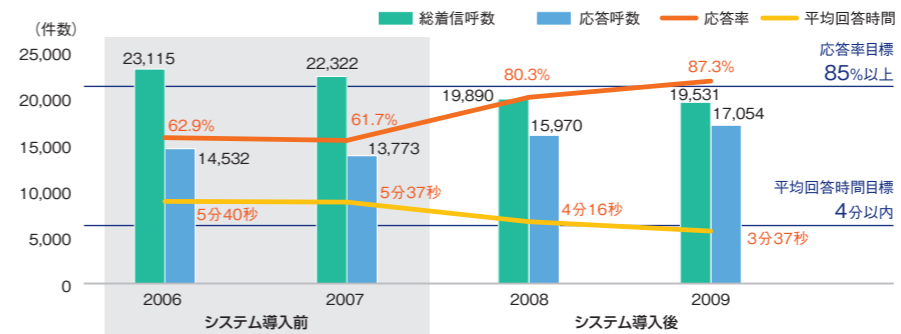


※1 最初のお電話でオペレーターにつながった割合のこと  
 ※2 主催：コンタクトセンター業界専門誌「月刊コンピューターテレフォニー」

● お客様の声を反映したモノづくり



● ナレッジデータベース導入の効果



顕微鏡お客様相談センターでの応対風景



BX3シリーズ(左から「BX53」「BX43」「BX63」)

## 生物顕微鏡、フルモデルチェンジ!

### 「BX3」シリーズ発売

オリンパスは、国内だけでなく世界中の研究・検査市場で幅広く使用されているシステム生物顕微鏡のベストセラー機種をフルモデルチェンジし、「BX3」シリーズとして「BX43」「BX53」「BX63」の3機種を発売しました。

「BX3」シリーズは、光学系の改良や操作のタッチパネル化等により、研究者の方に求められる「よりクリアな画像を撮影できる正確性」と「時間のかかる作業をスムーズに行うための快適性」、プロの検査技師の方に求められる「単位時間あたり多くの標本を検査できる効率性」と「検査件数が増加

しても疲れにくい快適性」を実現しました。これにより、「より正確に」「より効率よく」「より快適に」顕微鏡での観察を行うことができます。また、エコロジーモードやLED光源※といった環境に優しい新機能も搭載可能となりました。

今後も、理科・科学教育から生命科学の先端研究まで、オリンパスの高精度の顕微鏡技術で広く社会に貢献していきます。

※エコロジーモードは、「BX53」「BX63」に、LED光源は「BX43」「BX63」に搭載可能



E-5



E-P1



E-P1

## 「E-5」を発売! &

## 「E-P1」が「カメラグランプリ2010大賞」 「あなたが選ぶベストカメラ大賞」

## をW受賞!!

オリンパスは、「フォーサーズシステム規格」に準拠したレンズ交換式デジタル一眼レフカメラ「E-5」を発売しました。「E-5」は、当社ラインアップの最上位に位置するカメラです。ZUIKO DIGITAL (ズイコーデジタル)レンズの優れた描写力を最大限に引き出し、最高水準の高画質・信頼性を実現しています。

また、「新世代マイクロ一眼」「オリンパス・ペンE-P1」が「カメラグランプリ2010大賞」※1と一般ユーザーからの投票で選ばれる「あなたが選ぶベストカメラ大賞」をW受賞しました。

「カメラグランプリ2010大賞」は、平成21年4月1日から一年間に国内で新発売された199機種から選考され、その頂点に立つ栄えある賞です。「往年の名機『OLYMPUS PEN』の

※1 主催:カメラ記者クラブ/運営:カメラグランプリ実行委員会

思想と最新のデジタル技術を見事に融合させたE-P1は、デジタルカメラの新しい方向性を示したカメラ」として高く評価されています。

さらに、オリンパスの全てのデジタル一眼カメラに搭載されている「ダストリダクションシステム」に関する発明が「平成22年度全国発明表彰」で特別賞・朝日新聞発明賞を受賞したほか、「オリンパス・ペン・ライトE-PL1」も「2010年グッドデザイン賞」※2に加え、「レッドドット・デザイン賞2010」「TIPA Award 2010」ベスト・コンパクト・システムカメラ・エントリーレベル賞「DIWA GOLD Award」といった欧米の権威ある映像関連の賞も受賞しています。

※2 主催:財団法人日本産業デザイン振興会



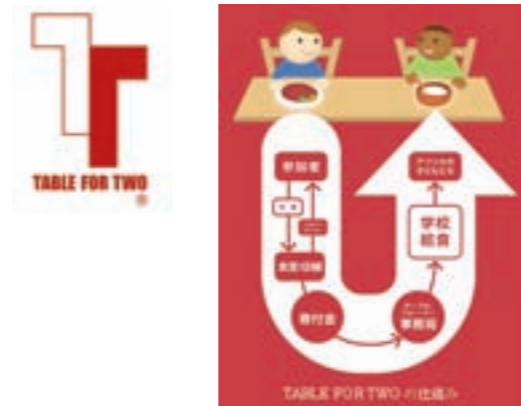
## 『TABLE FOR TWO』 社員食堂で寄付金付きメニュー導入

オリンパスでは、社会貢献活動の一環として、平成22年10月1日よりオリンパグループの社員食堂および飲料の自動販売機に、寄付金付きメニューを導入しました。

寄付金付きメニューを購入すると、1食につき寄付金20円、飲料は1本につき10円が、特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International (代表 小暮 真久氏)を通じて、開発途上国に寄付され、子どもたちの学校給食になります。

TABLE FOR TWO(テーブル フォートゥー)とは  
TABLE FOR TWOとは、開発途上国の飢餓と先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む、日本発の社会貢献運動です。開発途上国では、20円で学校給食1食をまかなう事ができます。1つのテーブルを囲み、先進国の参加者と開発途上国の子どもたちが、時間と空間を越えて一緒に食事をしているイメージから『TABLE FOR TWO』 ~2人の食卓~と名づけられました。

◆TABLE FOR TWO公式サイト <http://www.tablefor2.org/>



## 八王子新市民会館のネーミングライツ(命名権)取得

オリンパスにとって東京都八王子市は、昭和38年に八王子事業場を設立以来、グループの研究開発拠点となっています。このたび、地域貢献および文化・芸術振興の一環として、平成23年4月にJR八王子駅南口にオープンする八王子新市民会館のネーミングライツ(命名権)取得について、八王子市と協定書を締結しました。これにより、新市民会館の名称は「オリンパスホール八王子」となります。\*

オリンパスホール八王子は、近隣の多摩地域でもトップクラスの最大2,021席の収容数を誇り、最新の音響設備や舞台と客席の一体感のある設計により鑑賞環境に優れたホールであり、様々な魅力あるイベントやコンサートの招致が見込まれます。



OLYMPUS HALL  
HACHIOJI

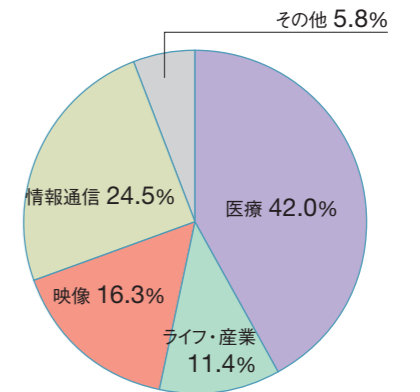
\*ネーミングライツの使用期間は10年間(平成23年4月1日から平成33年3月31日)

当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、医療事業および情報通信事業が増収となりましたが、平成21年8月に分析機事業を譲渡したことによる減収のほか映像事業で減収となったことにより、前年同期比で180億94百万円減少して4,173億27百万円(前年同期比4.2%減)となりました。営業利益については、ライフ・産業事業および情報通信事業で増益となった一方で映像事業で営業損失を計上したことにより、前年同期比27.0%減の208億31百万円となりました。経常利益については、為替差損益の改善等により前年同期比3.5%増の191億37百万円となりましたが、四半期純利益は、分析機事業の譲渡に伴う特別利益を計上した前年同期と比べると291億47百万円減少し70億46百万円(前年同期比80.5%減)となりました。

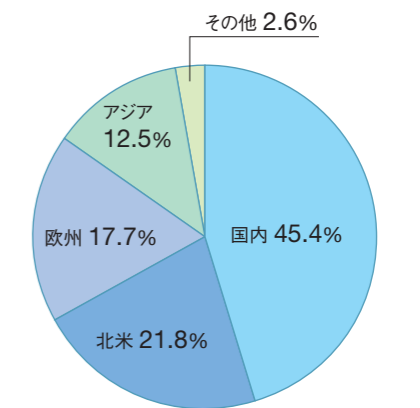
為替相場は前年同期に比べ、対米ドル、対ユーロともに円高で推移し、期中の平均為替レートは、1米ドル=88.95円(前年同期は95.49円)、1ユーロ=113.85円(同133.16円)となり、売上高に与える影響としては前年同期比214億円の減収要因、営業利益では前年同期比47億円の減益要因となりました。

事業部門を基礎とした製品・サービス別のセグメントに区分をしています。なお、当期より、従来「その他事業」に区分していた一部事業を「ライフ・産業事業」に変更していますので、前年同期比については、前年同期の数値を変更後の事業区分に組み替えた数値との比較となっています。

● 事業別売上比率



● 仕向地別売上比率







ディスプレイマルチポート「QuadPort™」  
患者さんにより負担の少ない手術を目指した単孔式腹腔鏡下外科手術で使用。1カ所の切開創から内視鏡を含む最大4本の鉗子の同時挿入が可能なマルチポート

### 医療事業

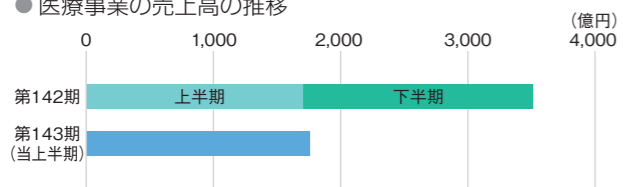
医療事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は1,754億2300万円(前年同期比2.9%増)、営業利益は349億1400万円(前年同期比7.1%減)となりました。

医療用内視鏡分野は、国内で主力のハイビジョン内視鏡システムの売上が回復したことに加え、海外も中国市場での売上が引き続き好調を維持したほか、ハイビジョン対応製品のラインナップを拡充したことによりビデオスコープの販売数が伸び、増収となりました。

外科や処置具等の分野では、国内で膽尿管等の内視鏡治療に使用するディスプレイガイドワイヤの新製品が好調であったほか、海外でディスプレイマルチポート等の単孔式腹腔鏡下外科手術関連製品が売上を伸ばし、増収となりました。

医療事業の営業利益については、研究開発投資の増加や為替の影響により減益となりました。

● 医療事業の売上高の推移



3D 測定レーザー顕微鏡「LEXT OLS4000」  
光学性能を向上させることで、観察するだけでなく測定への信頼性を高めた工業用レーザー顕微鏡

### ライフ・産業事業

ライフ・産業事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は474億1300万円(前年同期比21.5%減)、営業利益は28億7800万円(前年同期比15.7%増)となりました。

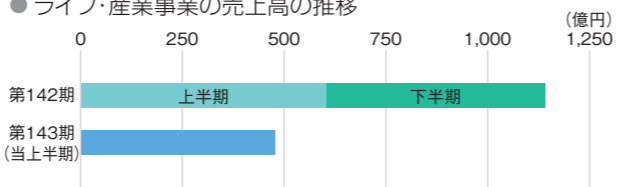
ライフサイエンス分野では、国内でシステム生物顕微鏡の新製品「BX3」シリーズや共焦点レーザー走査型顕微鏡「FLUOVIEW(フロービュー)」シリーズの販売が好調で売上を伸ばしましたが、海外での売上が為替の影響を受け、全体としては前年同期並みの売上となりました。

産業機器分野では、半導体業界等を中心に国内およびアジアで工業用顕微鏡やフラットパネルディスプレイ検査装置の販売が好調でした。また小型で軽量の工業用内視鏡「IPLEX(アイプレックス)L」シリーズの売上も堅調で、産業機器分野は増収となりました。

しかしながら、平成21年8月に分析機事業を譲渡したことにより、ライフ・産業事業全体としては減収となりました。

ライフ・産業事業の営業利益については、産業機器分野の売上拡大に伴い増益となりました。

● ライフ・産業事業の売上高の推移



レンズ交換式デジタル一眼「オリンパス・ペン・ライトE-PL1s」  
標準ズームレンズをさらに小型軽量化することで世界最軽量※454gを実現した「新世代マイクロ一眼」  
※標準ズームレンズを組み合わせたレンズ交換式デジタルカメラにおいて(平成22年11月16日現在 当社調べ)

### 映像事業

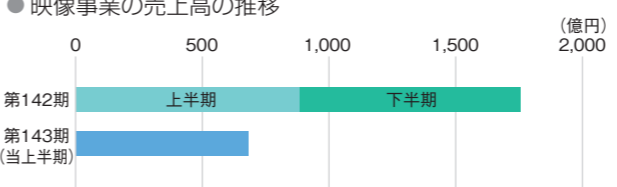
映像事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は681億7000万円(前年同期比22.4%減)、営業損失は33億8400万円(前年同期は17億3900万円の営業利益)となりました。

デジタルカメラ分野では、コンパクトカメラにおいて、防水・防塵機能、耐衝撃機能、耐低温機能等を搭載した「μTOUGH(ミュータフ)」シリーズやウルトラズームとハイビジョンムービー撮影機能等を搭載した「SP」シリーズの売上が堅調であったほか、一眼カメラにおいて、「マイクロフォーサーズシステム規格」に準拠した小型軽量かつ上質なデザインレンズ交換式デジタル一眼カメラの新製品「オリンパス・ペン・ライト E-PL1」の販売が国内外ともに好調に推移しました。しかしながら、為替の影響と低価格帯カメラ市場での競争激化に伴う販売台数の減少によりデジタルカメラ分野全体としては減収となりました。

録音機分野では、国内でICレコーダー「Voice-Trek(ボイストレック)V」シリーズの新製品やポケットサイズのラジオサーバー「PJ-10」の販売が好調でした。

映像事業の営業損益については、原価低減に努めましたが、減収により営業損失を計上しました。

● 映像事業の売上高の推移



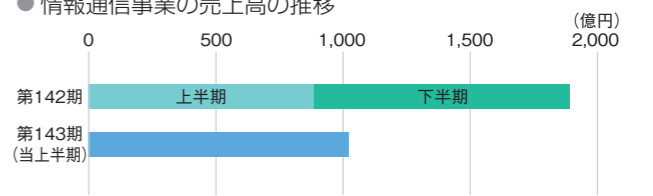
### 情報通信事業

情報通信事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は1,023億8900万円(前年同期比15.6%増)、営業利益は28億3600万円(前年同期比21.1%増)となりました。

売上高については、光回線等の固定回線やデータカード、フォトフレーム等の商材の販売が好調に推移したほか、スマートフォン等の携帯電話端末の売上が拡大し増収となりました。

情報通信事業の営業利益は、携帯電話端末の売上拡大に加え、販売コスト等の効率化を一段と推し進めたことにより、増益となりました。

● 情報通信事業の売上高の推移



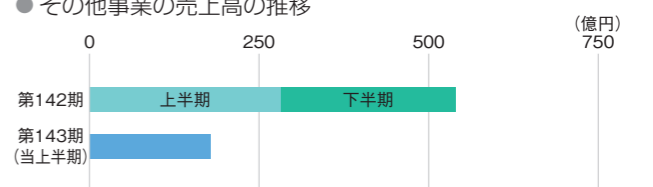
### その他事業

その他事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は239億3200万円(前年同期比15.1%減)、営業損失は21億6000万円(前年同期は21億9700万円の営業損失)となりました。

売上高としては、平成21年11月に一部子会社を売却したことによる売上の減少等に伴い、その他事業全体の売上は減収となりました。

その他事業の営業損益については、新事業関連子会社の収益が改善したことにより、ほぼ横ばいとなりました。

● その他事業の売上高の推移





財務状況 (単位：百万円)

	第141期 (平成21年3月31日現在)	第142期 (平成22年3月31日現在)	第143期 上半期 (平成22年9月30日現在)	増減額
流動資産	474,767	532,876	509,429	↓ 23,447
固定資産	631,551	619,351	553,748	↓ 65,603
資産合計	1,106,318	1,152,227	1,063,177	↓ 89,050
流動負債	341,905	332,442	295,186	↓ 37,256
固定負債	595,629	602,894	587,509	↓ 15,385
負債合計	937,534	935,336	882,695	↓ 52,641
純資産	168,784	216,891	180,482	↓ 36,409

Point

◆資産

投資有価証券や受取手形及び売掛金が減少したこと等により、資産合計は前連結会計年度末と比較して891億円減少しました。

◆負債

短期借入金が増加した一方、社債や支払手形及び買掛金、長期借入金が減少したこと等により、負債合計は前連結会計年度末と比較して526億円減少しました。

◆純資産

主に為替レートが円高となったことによる為替換算調整勘定の減少等により、純資産合計は前連結会計年度末と比較して364億円減少しました。

経営成績 (単位：百万円)

	第141期 上半期 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)	第142期 上半期 (平成21年4月1日～平成21年9月30日)	第143期 上半期 (平成22年4月1日～平成22年9月30日)	増減額
売上高	535,790	435,421	417,327	↓ 18,094
営業利益	32,099	28,518	20,831	↓ 7,687
経常利益	19,598	18,494	19,137	↑ 643
四半期純利益	3,603	36,193	7,046	↓ 29,147

Point

◆売上高

医療事業および情報通信事業が増収となりましたが、分析機事業の譲渡による減収のほか映像事業で減収となったことにより、181億円の減収となりました。

◆四半期純利益

前年同期に計上した分析機事業の譲渡に伴う事業譲渡益の影響で特別利益が前年同期比で大幅に減少したこと等により、291億円の減益となりました。

キャッシュ・フローの状況 (単位：百万円)

	第141期 上半期 (平成20年4月1日～平成20年9月30日)	第142期 上半期 (平成21年4月1日～平成21年9月30日)	第143期 上半期 (平成22年4月1日～平成22年9月30日)	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	30,242	36,193	9,149	↓ 27,044
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 17,865	30,563	5,297	↓ 25,266
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 2,516	23,512	△ 12,476	↓ 35,988

Point

◆営業活動によるキャッシュ・フロー

仕入債務の減少および法人税等の支払による減少要因があったものの、税金等調整前四半期純利益、減価償却費等の計上により、資金の増加は91億円となりました。

◆財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れ等の増加要因があったものの、短期借入金の減少および社債の償還等の減少要因により、資金の減少は125億円となりました。

株式状況 (平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,000,000,000 株
発行済株式総数	271,283,608 株
株主数	19,783 名

大株主 (平成22年9月30日現在)

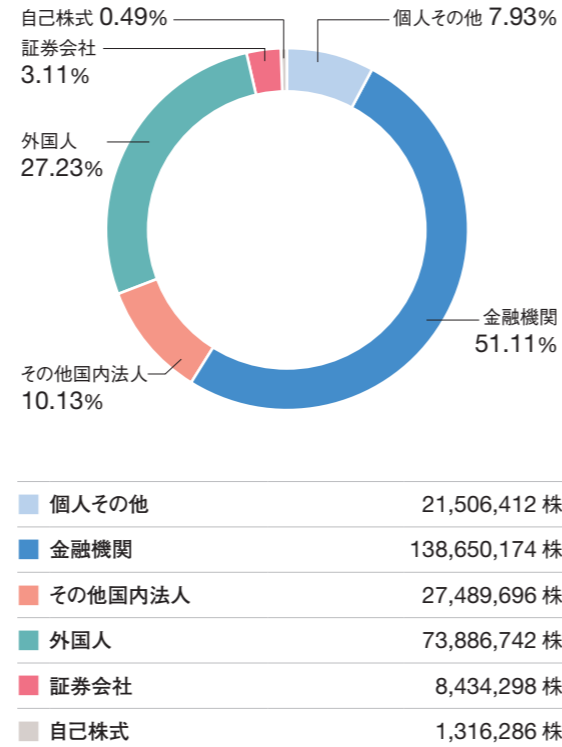
日本生命保険相互会社	22,426,718 株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,965,500 株
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,286,586 株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,092,200 株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	9,004,000 株
株式会社三井住友銀行	8,350,648 株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	7,732,378 株
ガバメント オブ シンガポール インベストメント コーポレーション ピー リミテッド	7,148,283 株
テルモ株式会社	6,811,000 株
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー-505223	5,555,624 株

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	6月	電話お問合せ	0120-78-2031(フリーダイヤル)
基準日	定時株主総会・期末配当: 3月31日 中間配当: 9月30日	取次窓口	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
株主名簿管理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社		

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
住所変更、単元未満株式の買取等については、株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

株式の分布状況 (平成22年9月30日現在)



未払配当金の支払いについて  
未払配当金の支払いについては、株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

会社概要 (平成22年9月30日現在)

設立 大正8年10月12日  
 資本金 483億32百万円  
 従業員数 35,831人(連結)  
 3,212人(単体)  
 本店 〒151-0072  
 東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目43番2号  
 本社事務所 〒163-0914  
 東京都新宿区西新宿2丁目3番1号 新宿モノリス  
 (03)3340-2111(代表)  
<http://www.olympus.co.jp>  
 事業場 八王子市(東京都)、上伊那郡および伊那市(長野県)、  
 西白河郡(福島県)  
 支店 札幌、名古屋、大阪、広島、福岡  
 営業所 仙台、横浜、新潟、松本、静岡、金沢、京都、松山、岡山、鹿児島  
 海外拠点 アメリカ、ドイツ、イギリス、中国、シンガポールほか  
 事業内容 **〈医療事業〉**  
 医療用内視鏡、外科内視鏡、内視鏡処置具の製造販売  
**〈ライフ・産業事業〉**  
 生物顕微鏡、工業用顕微鏡、工業用内視鏡、非破壊検査機器、  
 プリンタの製造販売  
**〈映像事業〉**  
 デジタルカメラ、録音機の製造販売  
**〈情報通信事業〉**  
 携帯電話等のモバイル端末販売  
**〈その他事業〉**  
 システム開発、生体材料の製造販売ほか

役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役社長	菊川 剛
取締役副社長執行役員	大久保 雅治
取締役副社長執行役員	山田 秀雄
取締役副社長執行役員	森 嘉治人
取締役専務執行役員	鈴木 正孝
取締役専務執行役員	柳澤 一向
取締役常務執行役員	高山 修一
取締役常務執行役員	塚谷 隆志
取締役常務執行役員	森 久志
取締役常務執行役員	渡邊 和弘
取締役執行役員	西垣 晋一
取締役執行役員	川又 洋伸
社外取締役	藤田 力也
社外取締役	千葉 昌信
社外取締役	林 純一
常勤監査役	今井 忠雄
常勤監査役	小松 克男
社外監査役	島田 誠夫
社外監査役	中村 靖夫
常務執行役員	五味 俊明
常務執行役員	栗林 正雄
常務執行役員	斎藤 隆
執行役員	唐木 幸一
執行役員	齊藤 典男
執行役員	川田 均
執行役員	正川 仁彦
執行役員	川俣 尚彦
執行役員	笹 宏行
執行役員	中塚 誠徳
執行役員	中嶋 正徳
執行役員	西河 敦
執行役員	依田 康夫
執行役員	エフ・マーク・ガムス
執行役員	マイケル・シー・ウオフォード
執行役員	窪田 明
執行役員	竹内 康雄
執行役員	古閑 信之
執行役員	林 繁雄
執行役員	田口 晶弘